



たかはし かずき
高橋 和輝 さん

●葛生中学校 3年

空手の道に生きる

僕の将来の夢は、空手の日本代表となって世界で活躍できる選手になることです。

そのために、毎日3時間以上、空手の稽古に励んでいます。稽古はきつくてつらいのですが、だからこそ意味があると思っています。また、空手を通して、礼儀作法を身に付け、何事にも立ち向かう勇気も身に付けたいと思います。

今後は勉強にもまじめに取り組み、父と同じ高校に進学し、空手の修行に励みたいと思っています。空手は僕たち家族の大切な絆です。そして僕の夢です。



市長からの

メッセージ



まだまだ暑さが続きます。皆さんいかがお過ごしでしょうか。現在、新庁舎建設工事は「免震装置」の設置も完了し、順調に進捗しております。この免震装置は庁舎の耐震性能を向上させ、地震時の揺れを最小にするもので、新庁舎の特徴の一つです。

6月からは希望のあった小中学校の新庁舎建設工事現場の見学会を実施してまいりました。5校、約400人の小中学生が見学会に訪れました。普段見ることができない大型クレーンや重機に驚きの声をあげながら、現場の説明に熱心に耳を傾け見学していました。

今月2日には幼児とその保護者を対象にした親子見学会も予定されており、新庁舎建設工事については、今後も機会あるごとに市民の皆さんに情報を発信してまいります。市ホームページにおいても現在の進捗状況など確認できますので、ご覧ください。

先月から、市内各地では夏祭りが開催されています。私も時間の許す限り、各地区の祭りに参加させていただいております。今月も3日の「ためまふるさと祭り」、9日・10日「さの秀郷まつり」、23日「三龜山大文字焼き」、23日・24日「くずう原人まつり」と続きます。各祭り、それぞれ工夫を凝らした盛りだくさんのイベントとなっておりますので、ぜひ皆さんもご参加ください。

先月の台風では本市は被害はありませんでしたが、これから本格的な台風シーズンになります。また、急な豪雨もしばしば発生しております。防災は普段からの備えが大切です。十分気をつけてお過ごしください。

岡部 正英



今回の表紙「引揚救助」 7月9日(水)佐野市消防署

佐野市消防署が、6月25日に行われた栃木県消防救助技術大会の「引揚救助」「はしご登はん」の2部門で優勝しました。

署員たちは次の関東地区指導会(引揚救助)、全国消防救助技術大会(はしご登はん)に向けて、日々の業務をこなしながら訓練に励んでいます(詳細は22ページ)。

たざわ
田澤 テル子さん
(豊代町)



キラリ★
話題の「ひと」

○プロフィール

昭和14年1月生まれ。
公民館運営審議委員・公害対策委員。
「郷土料理教室」などさまざまな講座を手
掛け、多岐にわたって活動。

人との出会いが生きる活力！

地元根付いた活動を中心に、多
忙な毎日を送る田澤さんは、市民大
学のスタッフとしての6年間の経験
を生かして、市内の公民館を主体に
活動しています。

主な講座は「郷土料理教室」ですが
他にも「わらぞうり作り」や、年末に
は「しめ縄作り」まで教えているそう
です。「毎回違った人たちとの出会い
が楽しくて」とのこと、講座は10
年以上も続いています。

7月からは地域の夏祭りに向けて
の準備も始まり、踊りの指導に地元
の婦人部の先頭をきって頑張ってい
ます。

また、毎日行っているのが野菜作
り。15年前にご主人を亡くされてか
ら、おひとり汗を流して頑張ってい
ます。なかでも小豆作りは6年連
続で品評会において入選されたほど
で、自慢の一つだそうです。

忙しいなかでも「農地も土地も無
駄なく利用して、いろいろな野菜や
花を育てることが楽しい」とのこと。
周りの人たちとの話の中から新しい
農法にも挑戦するそうで、「それがす
べて実になり、また次の挑戦につな
がっている」と話します。



郷土料理教室での田澤さん(左はじ)

70歳になったのを機に、「現状より
負担を感じることはしない」と、所
属する団体をしばって活動を減らし
たそうですが、それでも趣味は多く、
フォークダンス・大正琴・俳句は生
徒として楽しんでいます。

田澤さんのご自宅に伺った時に、
玄関に田澤さん自身を表しているよ
うな額を拝見しました。

「ただいるだけで、その場の空気が
あかるくなる みつを」

過ぎたことは振り返らないのが田
澤さんの主義。「常に前を向いてい
たい」と今日も元氣いっぱい笑顔で頑
張っています。

(市民記者 山崎ちか子)



川底の深みに付ける
「ボ」は近親感を表す

川の流れには、水の勢いが急なところとゆるやかなと
ころ、浅いところと深いところなどがあります。その中
で底が深く流れのゆったりしているところがあって、そ
こを旧田沼・葛生地方ではフカンボまたはフカンドなど
といいます。

夏休みになると子どもたちが水浴びをしようとフカン
ボにやってきます。子どもばかりでなく大人たちも、暑さ
を凌ぐためにやってきます。フカンボはみんなの格好の
遊び場となります。

「オツキナ(大きな)子だったら、フカンボで水浴びし
ても、ズンブクグリ(水中に潜って遊ぶこと)をしても
カマネ(大丈夫)けど、チッチー(小さい)子じゃ、アプ
ネカンネ(危ないからね)」

川の深いところをフカンボ以外にイズンボともいいま
す。ただイズンボは、出水が語源であるといわれている
ように、湧き水が川に流れ出ている深いところをいい、
フカンボとは区別して呼んでいます。

「イズンボのそこはよくメーネ(見えない)けど、ニガッ
パヤ(油鮪)がいっぱい泳いでいるし、ガマ(空洞になっ
ている所)には、岩魚やヤモ(やまめ)もいるんだってさ」
川の深みばかりでなく、池にも「ボ」を添えて、イケン
ボといいます。このように水の上のみや水の深さなどを
表す語に添える「ボ」は、身近にあつて親しみを感じさせ
たり、語調を整えたりする働きがあります。

(市民記者 森下喜二)

